

# 千葉県社保協通信

2015年度 No1 2015年 7月 6日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉セカビル 3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール [syaho2006@star.ocn.ne.jp](mailto:syaho2006@star.ocn.ne.jp)

## 戦争No! いまこそいのち・くらしを守る地域づくりへ 住民の実態から 国へ 自治体へ “憲法25条” 活かす共同広げよう

千葉県社保協  
第21回定期総会

7月4日土曜日、千葉市内にて第21回定期総会を開催。12団体・12地域社保協49人が参加しました。鈴木徳男会長は「社会保障総改悪へ暴走する安倍政権の下、いのちとくらしをまもる地域づくりめざす“社保協出番の時”」と開会あいさつ。方針案提案を受け、討論では生活保護基準引き下げ反対訴訟原告の水野哲也さん（流山市生健会）が「引き下げは国民生活全体に関わる。親戚知人や近所づきあいもできず、あたり前に生きる権利を奪うもの」と。「介護事業所アンケートの結果で介護保険課と懇談、市が事業者集め声を聴くことに」（野田社保協）「介護カフェに集まってお喋り。サービス取り上げないでと運動」（新婦人）、「現場実態調査アンケートで大手企業交渉」（千葉土建）、「保育士の処遇改善・市町村の責任で認可保育所増設を」（保問協）など10人が発言。新役員を選出しました。

### ●連帯のごあいさつ・メッセージ ありがとうございました

- \*日本共産党 寺尾さとし県会議員
- \*中央社会保障推進協議会
- \*東京社会保障推進協議会
- \*埼玉県社会保障推進協議会
- \*神奈川県社会保障推進協議会
- \*NPO法人千葉県腎臓病協議会
- \*千葉県母親連絡会

### ●2015国保改善運動学習交流会●

## 都道府県単位化は医療費抑制のしくみづくり

～「社会保障制度としての国保」を実現するために学び交流～

県社保協が4日、千葉市内で開催した国保改善運動学習交流会には10団体・12地域社保協から95人が集いました。

長友薫輝氏（三重短期大学教授）が講演し、「都道府県単位化は新たな医療費抑制策であり影響は国保加入者のみにとどまらない」「国保料のさらなる引き上げや徴収強化が懸念される」と指摘。「国の今年度1700億円財政支援は全く不十分」「市町村は県と協力し、さらなる国費投入を求め、高すぎる国保料の引き下げ求めるべきであり、保険料は応能負担が原則」と話しました。さらに医療保障をつくる運動の視点で、①国保改善運動で住民の声が生きていく地域づくりを ②自治体職員、医療・介護・福祉専門職の役割はアドボカシー（権利擁護・権利保障）活動 ③深刻な問題ほどどうやって関心を持ってもらうか～つながりをつくるチャレンジをと強調しました。

県内の国保をめぐる状況と特徴について鈴木英雄国保部員が報告。「地域の運動で改善させた成果を広げ、実態調査と相談活動にとりくみ、憲法25条にふさわしい国保制度にするため、加入者・主権者の声が充分生かされる制度運営を求めよう」と提起。5人が地域・団体のとりくみについて発言しました。

### ＜地域・団体からの発言＞

- ① 千葉市の国保を考える会のとりくみと  
低所得者対策としての境界層措置の問題点（民医連）
- ② 子どもの均等割軽減を求めて（船橋社保協）
- ③ 徴収強化の実態とたたかい（松戸民商）
- ④ 千葉県の地域医療ビジョン・供給体制について  
（地域医療と公立病院を守る県民連絡会）
- ⑤ 子ども医療費助成とパナルティ（県保険医協会）

「社会保障についてほとんど不勉強状態の者にもとても理解しやすい。話し方自体もとても工夫されていて参考になった」「特に運動に携わっている以外の市民や意見、考え方を異にする方々への接近のしかたの工夫など勉強になりました」「各発言も、憲法・国保法から見た国保が抱える問題、現在つきつけられている課題とそれへの対応、total的にととても良かった。県議、市議の方たちも参加し、共に取り組んでいくこと、共感できたのもよかったです」などの感想が寄せられました。



難しい問題をわかりやすく解明された長友薫輝先生の講演